



2021年度通常総会開催の報告

2021年度通常総会は、新型コロナウイルス感染症対策のため、昨年度に引き続き書面決議で行いました。理事会が提案した議案に対して活動会員に書面で意思表示をいただき、6月26日（土）、理事によって、活動会員50名のうち意思表示のあった40名全員の賛成を確認しました。

その結果、2020年度活動報告及び収支決算報告、2021年度活動計画及び収支予算について原案どおり承認されました。

設立10周年を迎えた2020年度は、コロナ禍の影響により、電話開設に当たって人数制限を行うなどの感染対策に配慮しながら子どもの声を聴く活動を行いました。しかし、開設を休止した期間もあり、開設日は52日、1,076件の受信となりました。

また、受け手継続研修などをオンラインで開催するなど工夫をして活動を行いましたが、新たな受け手を増やす養成講座及び10周年記念行事は残念ながら中止となりました。2021年度は、感染状況を見ながら、電話開設、研修、広報及び10周年記念行事の実施に努めてまいります。

2020年度の収支決算は次のとおりです。一部事業の中止等により大幅な支出減となったこともあり、当期収支差額は約13,000円のプラスとなっております。

2021年度も子どもたちのために、よりよい活動ができるように実践してまいりますので、ご支援、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

| | | |
|----------------|----------|----------|
| ①収入合計：483,870円 | 会費収入 | 301,000円 |
| | 寄付金収入 | 174,000円 |
| | その他収入 | 8,870円 |
| ②支出合計：470,223円 | 事務所費 | 276,000円 |
| | 事務費・通信費等 | 194,223円 |
| ③収支差額（①-②） | | 13,647円 |
| ④前年度繰越金 | | 625,554円 |
| ⑤次年度繰越金（③+④） | | 639,201円 |



小学生向けカード



中学生向けカード

中四国エリア研修（オンライン）に参加

7月19日（月）、中国・四国エリアでチャイルドラインを実施する12団体合同で、「チャイルドライン中四国エリア研修」がオンラインで開催され、約160名が参加。チャイルドラインこうちからは7名が参加しました。

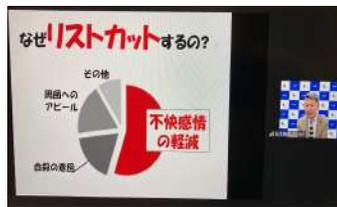
講師は、国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 薬物依存研究部長の松本俊彦先生（精神科医）で「自傷・自殺する子ども」をテーマに講演をいただきました。

10代の1割にリストカットの経験があり、経験者の6割は10回以上。開始年齢は12～13歳で大人が気づけるのは30分の1の確率だそうです。

大人の偏見としてありがちな「リストカットして周囲にアピールしたい子ども」は実際には少なく、子どもの多くはリストカットすることで「不快感情の軽減」をしようとしているのです。辛い出来事、辛い感情を、皮膚を切ることで切り離しているような感覚でリストカットをしてしまうようですが、それが慣れとなり、エスカレートすると自殺にもつながってしまう危険性が高まります。

リストカットをした子ども、自殺願望を口にする子どもに対して、大人は怒ったり、説教したりするのは効果がなく、「よく言ってくれたね」と迎え入れ、「どうしてそんな気持ちになったのかな」と気持ちを聴くことが大事というお話もありました。

親や先生、友だちに言えなく、誰かに聴いてほしいときに子どもが電話をするチャイルドラインの存在は大切に、子どもの気持ちを傾聴する活動はこれからも重要になると感じた研修でした。



カードを配布

高知の子どもたちに、チャイルドラインのことを知ってもらうため、夏休み前の7月、高知県内全ての小中高等学校を經由して、子どもたちへのカード配布を行いました。（高知新聞厚生文化事業団の厚生文化事業助成金を活用させていただきました。）

ご寄付のお礼（2021年3月～7月）

ご寄付をいただいた皆様をご紹介します。皆様のご理解とご支援に感謝申し上げます。

<企業・団体の皆様>

- 高知とさみずきライオンズクラブ 10,000円
- 食家「雅」様 3,000円（寄付つきメニューより／4～6月分）

<個人の皆様>

矢野川尚史・禎子 様、大崎博澄 様、ほか匿名3名

本会の活動・運営は、会員の会費、皆様の寄付等により成り立っています。今後ともよろしくお願いいたします。

◆会員数（2021年8月1日現在）

活動会員 50人
支援会員 33人・団体